

山行番	個人山行
日 時	2014. 8. 12日(火) 雨時々曇り～13日・晴れ～14日・曇り～ 15(金) 曇り後雨
山 域	北アルプス・中部(針ノ木雪渓～蓮華岳～北葛岳～七倉岳～船窪岳～不動岳～烏帽子岳～野口五郎岳、最高点=2924m)
コース	12日=扇沢6:30～大沢小屋8:00～針ノ木峠11:00(テント泊) 13日=針ノ木峠5:10～蓮華岳6:30～北葛岳9:40～七倉岳11:30～船窪小屋 13:00(小屋泊) 14日=船窪小屋5:00～船窪岳6:00～不動岳10:10～南沢岳12:00～烏帽子岳 13:00～烏帽子小屋13:40・14:10～三ツ岳16:00～野口五郎小屋17:00 13日=野口五郎小屋5:00～野口五郎岳5:15～真砂岳5:45～南真砂岳6:40～湯 俣岳8:00～湯俣温泉(晴嵐荘)10:00・11:15～高瀬ダム14:00
標高差	上り=扇沢約1430m～野口五郎岳2924m=約1494(ただし累計標高 差は大) 下り=野口五郎岳2924m～高瀬ダム約1270m=約1654m
参加者	諏訪部(単独)

数年前から始めた北・中央・南アルプスの私にとっての空白地帯潰し(まだ歩いていない主稜線を歩く)を今年の夏も実行した。今回は蓮華岳から烏帽子岳までの稜線だ。ここは後立山連峰の南端であり、烏帽子岳以南から始まる裏銀座縦走路との繋ぎの部分だ。

この区間は北アルプスでも標高が低く、崩壊で山肌が痛々しく見える。そのせいか極めて不人気の山域だ。もちろん深田百名山は一つもない。



針ノ木大雪渓

この崩壊は、フォッサマグナの西辺である糸魚川静岡構造線に沿った隆起に原因があるものらしい。それに雪による雪崩が加わり、崩壊がどんどん加速している。つまりここよりは少し北側になるが白馬岳のように西側がなだらかなのに東側(信州側)がすっぱりと切れ落ちているのと似ている。

船窪岳、不動岳など至る所が大崩壊地になっていて、歩いている途中も時々岩雪崩の

音が聞こえるくらいだった。



針ノ木大雪溪を登る



針ノ木峠にて。左；鳴沢岳、右；岩小屋沢岳、  
左奥；白馬岳方面、右奥；鹿島槍ヶ岳



針ノ木峠にて。左；北葛岳、中；船窪岳、  
右奥；槍・穂高

登山道の両側にはクロウスコ（黒臼子）、ウラシマツツジ（裏縞躑躅）、コケモモ（苔桃）が生えている。クロウスコとコケモモは既に実がなっていて摘んで食べる。ちょっと酸っぱいが美味しい。これらの葉が紅葉する頃は登山道の両側が赤い絨毯状態になるのではないかと思う。

登山道は崩壊地の縁を巻くように付けられている。危険な場所には梯子やロープが設置されているのでそれほど臆病になる必要はないが、雨で足下が滑りやすくなっている時は注意が必要だろう。

今回の縦走の結果、北アの主稜線で私が歩いていないのは立山の一ノ越から薬師岳までとなった（もちろん細かいことを言えば切りがないが・・・）。

前夜発で大町温泉郷に向かい「薬師の湯」に車を停めて車中泊。

朝一番のバスに乗って扇沢着。小雨が降っている。樹林の中を歩いて大沢小屋着。針ノ木雪溪を登る。傾斜はそれほどきつくないのでアイゼンは不要だった。ストックは一応1本持ってきたがここで使っただけでその後は単に荷物になっただけだった。

針ノ木峠に着く頃には雨も上がった。テントを張って一息付く。雲が上がってきて周囲の景色が良くなった。北側には白馬岳、鹿島槍ヶ岳、爺ヶ岳、針ノ木岳。南側には明日歩く北葛岳から七倉岳の稜線、槍・穂、水晶岳、薬師岳などが広がる。

2日目は好天だった。蓮華岳の斜面はコマクサ（駒草）の群落が広がる。花期は少し過ぎているようで、やや萎れてはいるがそれでもやはり高山植物の女王だ。

蓮華岳からは「蓮華の大下り」というくらいの高度差を下る。途中に「白いコマクサ」が数株あった。やはり人が少なく、同方向に数名、すれ違いも10名程度で北葛岳に到着。この山頂も展望が良く、目指す船窪小屋が近くに見える。

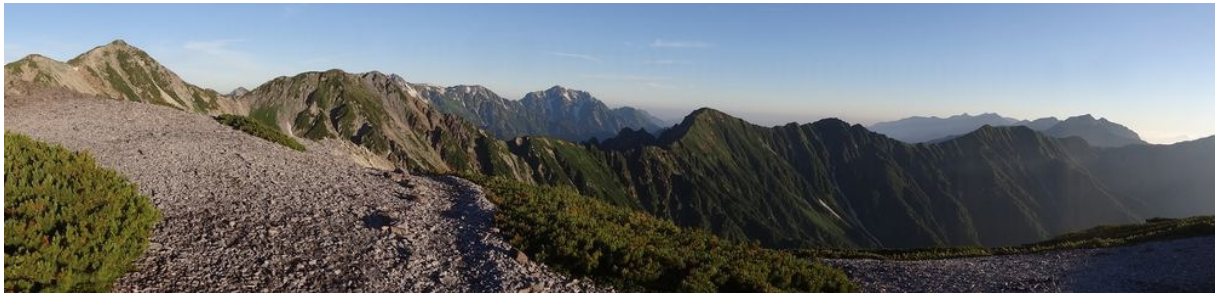




蓮華岳山頂にて。奥は立山・剣岳方面

七倉岳を通過して船窪小屋の少し手前に分岐があり、明日向かう船窪岳方面に行く。10分ほどで旧船窪小屋跡であるテント場に着いた。既に3張りほど張ってあった。この下に危険なことで有名な水場がある。ロープが設置してある。急傾斜の崩壊地の中に美味しい水が湧き出している。ここで5リットル補充した。

分岐に戻って船窪小屋へ向かう。こ



蓮華岳山頂にて北側を望む。左端は針ノ木岳



船窪小屋テント場下の水場

の小屋は定員60名程度の小さな小屋で、管理人の松澤宗洋・寿子夫妻（この小屋ではお父さん、お母さんと呼ばれている）のもてなしが評判の小屋だ。着くと早速お茶が出てきた。囲炉裏端の壁には愛知県豊田市の鍛冶屋「二村」のピッケルが掛かっていた。お父さんの愛用品とのこと。断って見せて貰う。製造番号は81番と初期の作だった。

夕食はお母さんによる評判の山菜天ぷらだ。囲炉裏端で食べるが狭いので全員終わるのに2回掛かった。宿泊客が多い時は3回、4回と回すのだろう。

全員が食べ終わって夜7時から囲炉裏端で「お茶会」が開かれた。この小屋は発電機がないので照明は灯油ランプだ。20名ほどが参加した。ネパール・ティーが振る舞われ、全員が簡単な自己紹介をする。

多くの人が「北アルプスではここだけ残ってしまいました」と言う。やはり誰



船窪小屋

も同じだった。私の番だ。「伊豆の国市から来ました」と言うと「そんな所に登山を



山菜テンプレラの夕食

する人がいるのか？」と思われたらしく、皆さん驚いていた。「道楽でピッケルを集めていて200本ほど持っています」と紹介した。

自己紹介の最後はお父さんとお母さんだった。「お母さん」は旧の小屋を建てた父親が雪崩で急死し、18才の時に小屋を引き継ぐことになったとのこと。その後しばらくして知り合った「お父さん」が毎週土曜日に半ドン勤務が終わると荷歩荷物を背負って扇沢～針ノ木峠～針ノ木谷～船窪小屋と5時間掛けて登って来た。そして月曜日の朝に「お父さん」は小屋を出て扇沢に戻って出勤したとのこと。それを毎年夏に毎週繰り返して、何年か後に結婚したようだ。とんでもない遠距離恋愛だったと驚いた。

お茶会が終了し、この小屋の常連客の一人が近寄ってきて「私の知り合いがナンガパルバット山頂でヘルマン・ブールの残したピッケルを発見したんですよ。その話は知っていますか？」と言う。「はい知っています。モデル・アッシュエンブレナーですね。確かあのピッケルはブール未亡人に返却したんですよ」と私。「そうなんです。やはり知っていましたか」とのこと。



お茶会の様子。話しているのはお父さん

小屋は7割程度の泊まり客で広々と使え、安眠できた。なお小屋では洗い物は天水だが、飲料水は毎日水場に汲みに行っていてそれを有料で分けている。また「平の渡し」から針ノ木谷を経て船窪小屋に至る針ノ木古道は廃道寸前だったがこの小屋の常連客達によってかなり整備が進んだとのこと。9回の徒渉を要する（靴のままジャブジャブ渡るとのこと）らしいがぜひ一度歩いてみたいものだ。

3日目は今回の山行のハイライトだ。船窪岳から不動岳を越えて烏帽子岳まで歩く長丁場だし、ザレ場や狭い個所など難所が続く道だ。



船窪岳へ向かう

天気は高曇りで今にも泣き出しそうな空模様だ。朝明るくなるのに合わせて小屋を出発した。前日来たテント場を通り、まもなく針ノ木谷への分岐を右に見る。

縦走路は崩壊地の縁に出たり樹林帯に入ったりして進んでいく。梯子、ロープ、ワイヤー、栈道など次から次へと出てくる。殆どがザレた花崗岩の白砂の道だし、樹林帯の





随所に梯子やロープが設置されている



高瀬ダムを望む

中は滑りやすい土の道だ。どこも傾斜がきついので雨の日は相当に注意を要するだろう。

船窪岳を經由し、小さなアップダウンを繰り返して登り付いた不動岳は何ということ



不動岳山頂

ことはないピークだったがそこから少し行った先にはコマクサの大群落があった。一面に咲き乱れるコマクサの中を縦走路が通っている。天気が良くて時間に余裕があればのんびりしたいところだが先を急ぐ。

次の南沢岳へも何度も上り下りがあった。南沢岳山頂は白砂の平地でここで植生が変わった。コマクサも少しあるがタカネツメクサやイワギキョウが主役だ。烏帽子岳も間近になった。



不動岳山頂直下にあるコマクサの群落

烏帽子岳の手前には四十八池と呼ばれる地塘群がある。小さな池が点在し、池の周りはミヤマキンポウゲやアオノツガザクラが咲き乱れる樂園のようなところだった。

烏帽子岳山頂は縦走路から分岐している。私は10年ほど前に一度登っているので山頂往復は省略した。

烏帽子小屋に着いてからこの先のことを考えた。この山行の目的である空白地帯潰しは先ほどの烏帽子岳山頂分岐までで今回は達成した。だから今日こ

こからブナ立尾根を下っても悔いは無い。天気はこの先明日、明後日と悪くなる方向だ。

しかし当初の計画通り、稜線を進んで野口五郎岳を越え、竹村新道を下って秘湯中の秘湯である湯俣温泉に入るのも魅力的だ。



烏帽子岳北側の四十八池



烏帽子岳



強風の野口五郎岳山頂

30分間の大休憩を取り、腹も空いてきたのでカップラーメンを作ってしばし考えた。やはりまだ時間も早いので野口五郎まで頑張ることにする。

烏帽子小屋を出る時には青空も少し見えたのに時々通り雨があるような天気になってきた。三ツ岳の南斜面には大きな雪田が残り、きれいな水が流れ出している。ここで水を4リットル補充して野口五郎小屋を目指す。

午後5時、ようやく野口五郎小屋に到着。結局この日は12時間の行動時間だった。小屋は既に夕食の時間だった。ビールを買い、自炊室でアルファ米とレトルト中華丼の夕食とする。この小屋も7割程度の混み具合で安心した。なお以前あったテント場は何年か前に閉鎖されたとのこと。

4日目の朝は強い風で明けた。この日も5時に出発し、野口五郎岳を目指す。山頂に着いたが誰もいない。霧で周囲の景色もない。写真だけ撮って先を急ぐ。

真砂岳を巻いたところで竹村新道の分岐に至った。ここから主稜線はずれるので少しは風が弱まるかと思ったが相変わらず強い風だ。竹村新道も長く急な道だった。途中シナノキンバイとハクサンイチゲが真っ盛りの花畑を過ぎ、南真砂岳と湯俣岳の2つのピークを登って越える。湯俣岳を下るにしたがって雨が降り出した。硫黄の臭いもしてきた。

午前10時ようやく湯俣温泉の晴嵐

荘に到着した。ここから16分登ったところには名物の露天風呂があるが、雨の中での入浴を考えると気が引ける。そこで晴嵐荘の内湯に入ることにした。入浴料を払おうとすると管理人は「今掃除が終わったところで湯を張っている最中です。それでも良かったら入って下さい。料金は入りません」とのこと。お言葉に甘えてそうすることにした。

確かに湯船の湯は半分にも達していなかったが文句は言えない。湯船と洗い場だけの実に簡素な温泉だが久しぶりの風呂はうれしかった。風呂上がりにビールと蕎麦を



頼んだ。

一緒に食堂にいた男女5人組が「一緒に下って高瀬ダムからのタクシーを割り勘にしませんか？」と提案してきた。依存はなかったので彼らと一緒に下る。



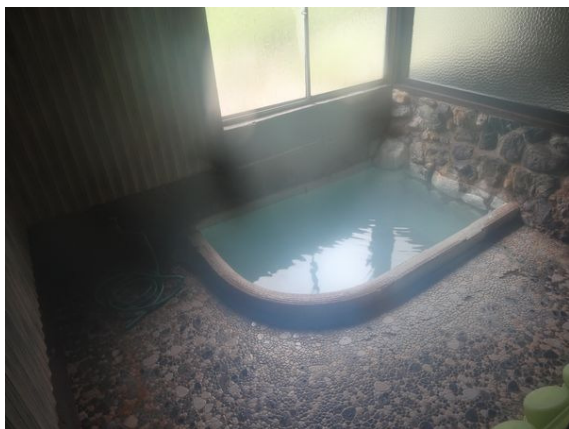
竹村新道の途中にある花畑

彼らのリーダーは大野雅久さんと言って川崎の人だった。私より2才上でサラリーマンながらガイド資格を持っている。道中話しながら下ったが相当な登山経験者だ。今回は仲間内での登山で当初計画は剣岳長治郎谷の熊ノ岩にテントを張り、八ツ峰6峰Dフェースとチンネ左稜線を登る計画だったらしい。しかし天気が芳しくないのもその計画は中止したとこと。



湯俣温泉「晴嵐荘」

大野さんは大町温泉郷近くに別荘があってそこをベースにしている。剣岳行きの計画を変更して一昨日は柏原新道を登って稜線を縦走し、その日の内に針ノ木雪渓を降りて来たとのこと。扇沢着は夜7時だった由。コースタイム14時間、すごい健脚だ。昨日湯俣に来て2日間温泉三昧だったとのこと。結局葛温泉からも大野さんの車に乗せてもらい私の車のある大町温泉郷まで運んでもらった。私はここで彼らと別れ、次の目的地である夜叉神峠に向かった。



晴嵐荘の内湯

今回の山行は単に私の空白地帯を埋めるためのものであり「いつか行かなくてはならない」と、いわば宿題のような山行であった。だから大した期待を持っていなかった。現に穂高のような岩稜帯はないし、花もそう多くはなかった。また山肌は崩壊地が目立って殺伐としていた。

しかしこの山域からの景色の良さは予想を遙かに越えていた。また船窪小屋の雰

気は思った以上に良かった。それらは望外の収穫だった。ここは何度も行きたくなるような山域ではないし、積極的に他の人を連れて来たいと思うほどでもなかったが、思った以上に楽しめた山だった。

なお、針ノ木小屋から一日で烏帽子小屋まで達するのは時間的に相当厳しい。したがって船窪小屋の存在価値は充分にあると実感した。





コマクサ (駒草)



白いコマクサ



ミヤマアキノキリンソウ (深山秋の麒麟草)



イブキジャコウソウ (伊吹麝香草)



チングルマ (稚児車) の実



ウサギギク (兎菊)



クロウスコ (黒臼子) の実



コケモモ (苔桃) の実